

科目	教育原理（１）	単位	2	授業 形態	講義	開講 時期	1年 前期	担当	兼平友子
到達目標 及びテーマ	<p>○到達目標 教育における基礎・基本を概観し、教育者にふさわしい心構えを育むことを目標とする。</p> <p>○テーマ 教育に関しての基礎を学び、教育観についての自分なりの考えを持つ。</p>								
授業の 概要	教育における基礎的概念、教育思想、歴史的経緯および生涯学習、現代の教育課題等について学ぶことで、教育についての論理的な思考の基礎を培っていく。								
回	授 業 計 画								備 考
1	教育とは① 教育の意義と目的について学ぶことで教育への基本的理解を深める。								
2	教育とは② 人間の発達と教育との関連について考察する。								
3	西欧の教育思想① 主にデューイ、コメニウスの教育思想について学び、その歴史的背景についても概観する。								
4	西欧の教育思想② 主にルソー、ペスタロッチーの教育思想について学び、その歴史的背景についても概観する。								
5	日本における教育の理念と歴史① 明治までの教育観と教育制度の変遷を学ぶ。								
6	日本における教育の理念と歴史② 戦後の教育観と教育制度について学ぶ。								
7	教育の制度① 教育の基盤となる法規を学び、学習指導要領の目的、基本構造を理解する。								
8	教育の制度② 教育の基盤となる法規を学び、学習指導要領の目的、基本構造を理解する。								
9	教育課程① 日本における教育課程の編成について学ぶ。								
10	教育課程② 学習指導と生徒指導について学ぶ。								
11	教育の実践① 教育実践の基礎理論について学ぶ。								
12	教育の実践② 学校・学級の基本的な経営について学ぶ。								
13	生涯学習 生涯学習が提唱された背景とその基本理念について学ぶ。								
14	現代の教育における課題 今日の教育における問題と課題を検討する。								
15	まとめ 教育者としての専門性を捉えたうえで、望ましい教育者像を考える。								

テキスト	使用しない。	
参考書・資料等	「教育小六法 平成 23 年度版」学陽書房 「解説 教育六法 2011 平成 23 年度版」三省堂	
評価方法	授業の中で課す小レポートと、まとめのレポートを併せて評価する。	
履修上の注意等	講義後復習を行い、自分なりのノートを作っていくよう心がけること。	

科目	教育原理（２）	単位	1	授業 形態	講義	開講 時期	1年 後期	担当	兼平 友子
到達目標 及びテーマ	<p>○到達目標 教育において多様な観点から「教育とは何か」について考えることで、教育者としての心構えを育む。</p> <p>○テーマ 教育に関する知識・思考を広げ、現在の教育問題について自分なりに考えていく。</p>								
授業の 概要	教育における制度、行政、教育課程および生涯学習、特別支援教育等について学び、今日における教育課題について考えていく。								
回	授 業 計 画								備 考
1	教育とは 現在の教育における問題について考える。								
2	教育の制度① 諸外国における学校制度の変遷を学ぶ。								
3	教育の制度② 日本における学校制度の変遷を学ぶ。								
4	教育の制度③ 戦後の学校教育制度について学ぶ。								
5	教育の制度④ 教育基本法、学校教育法などを読み取ることで教育の基礎を理解する。								
6	教育課程と教育内容① 教育課程の意義と内容、教育課程に関わる教育法規について学ぶ。								
7	教育課程と教育内容② 教育課程の意義と内容、教育課程に関わる教育法規について学ぶ。								
8	学習指導要領 学習指導要領の目的・内容を概観する。								
9	教員の服務 教育者としての服務のあり方について法規の内容を読み取り、基本的な原則、内容を理解する。								
10	教育行政 国と地方の行政の基礎事項について学ぶ。								
11	学校経営・学級経営 学校経営、学級経営の基礎事項について学ぶ。								
12	生徒指導と特別活動 生徒指導、特別活動の意義、内容について学ぶ。								
13	生涯学習と特別支援教育 生涯学習の意義と課題、我が国の特別支援教育における現状と課題について考察する。								
14	現代の教育における課題 今日の教育における問題と課題を検討する。								
15	まとめ 教育者としての専門性を捉えたうえで、望ましい教育者像を考える。								
テキスト		使用しない。							

参考書・資料等	「教育小六法 平成 23 年度版」学陽書房 「解説 教育六法 2011 平成 23 年度版」三省堂	
評価方法	授業の中で課す小レポートと、まとめのレポートを併せて評価する。	
履修上の注意等	現在の教育問題に関わる新聞、ニュース等に目を通しておくこと。	

科目	教育原理（3）	単位	1	授業形態	講義	開講時期	1年後期	担当	兼平友子
到達目標及びテーマ	<p>○到達目標 実践場面におけるより具体的な方法を考察することにより、教育者としての資質を高めていく。</p> <p>○テーマ 教育に関する基礎的な理解を踏まえながら、教育者という専門職としての実践的能力を高められるようにする。</p>								
授業の概要	<p>学習指導、生徒指導、学級経営等の具体的な実践方法について考えるとともに、地域社会との連携の重要性についても学んでいく。また、教育原理の講義を通して、専門職としての望ましい教育者像について考察する。</p>								
回	授 業 計 画								備 考
1	教育とは 現在の教育における問題について考える。								
2	教育の実践① 教育実践の基礎理論について学ぶ。								
3	教育の実践② 教科指導の具体的な方法、原理について学び考察する。								
4	教育の実践③ 教科外指導の具体的な方法、原理について学び考察する。								
5	教育計画 指導計画における基本的な概念を学ぶ。								
6	教育の評価 教育における評価の意義について学ぶ。								
7	就学前教育 就学前教育の現状と課題について学ぶ。								
8	生徒指導と特別活動① 生徒理解について学ぶ。								
9	生徒指導と特別活動② 生徒指導について具体的な事例から考察する。								
10	学級経営① 具体的な学級経営のしかたについて考察する。								
11	学級経営② 具体的な学級経営のしかたについて考察する。								
12	地域社会との連携① 家庭との連携について考察する。								
13	地域社会との連携② 地域との連携について考察する。								
14	生涯学習と特別支援教育 生涯学習の意義と課題、我が国の特別支援教育における現状と課題について考察する。								
15	まとめ 専門職として望ましい教育者について考える。								
	テキスト	使用しない。							
	参考書・資料等	そのつど資料を作成し配布する。							
	評価方法	授業の中で課す小レポートと、まとめのレポートを併せて評価する。							
	履修上の注意等	現在の教育問題に関わる新聞、ニュース等に目を通しておくこと。							

科目	家庭科教育法	単位	2	授業形態	講義	開講時期	1年後期	担当	工藤 トミ子
到達目標及びテーマ	<p>○到達目標小・中・高等学校に於ける家庭科教育の現況を理解させ、家庭科教師として自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応出来る専門職としての能力を身につけるためにはどうあるべきか。その知識と技術を習得し、実践出来るようにしたい。また、広く人を愛する心を持ち、教育に熱意と信念をもって臨めるよう豊かな人材を育てていきたい。</p> <p>○テーマ 21世紀の家庭科教育について、人を育てるといふことの大切さについて</p>								
授業の概要	<p>○家庭科教育の意義と方向性、小・中・高等学校の家庭科の学習指導要領の内容、指導計画と教材研究</p> <p>○模擬授業の公開</p> <p>○教育実習・教員採用試験にむけて</p>								
回	授 業 計 画								備 考
1	オリエンテーション 教科教育法 家庭科教育法 教師としての抱負について 理想の教師とは（話し合い考えさせる）								目標をきちんと持たせる
2	家庭科教育の意義 1 家庭科教育の概念と目指すもの・意義・教科教育としての家庭科や家政学とのつながり 家庭科教育が育む力								
3	家庭科教師に望まれる要素について 2 家庭科教育の歴史の変遷と展望について理解を深める								
4	21世紀の生活課題と家庭科教育 1、21世紀の生活環境と求められる人間像 2 学校教育として求められる視点 3 家族・家庭生活において求められる視点から家庭科教育を理解する。								レポート提出
5	小学校の家庭科 1 位置づけ 2 性格 3 目標及び内容 4 指導計画 5 指導上の問題点 6 教材研究 学習指導要領								
6	中学校の技術・家庭科 1 位置づけ 2 性格 3 目標及び内容 4 指導計画 5 指導上の問題点 学習指導要領								
7	学習指導法 1 指導法の原理 2 指導上の類型 3 指導の技術 4 諸方式								
8	教育現場から VTR 視聴 教材研究について実物展示し、指導する。								教育現場を知る
9	高等学校の家庭科 1 位置づけ 2 性格 3 目標 4 科目組織 5 「家庭基礎」「家庭総合」「生活技術」の目標と内容 6 HP と学校家庭クラブ活動 学習指導要領								
10	学習指導案の個人指導（指導案の作成・視聴覚機器を取り入れた学習指導案の作成、細案、板書事項の指導助言）								
11	教育評価法 1 評価の意義 2 目的 3 観点 4 目標								
12	学習指導案の作成・教材研究等の指導助言								
13	模擬授業（視聴覚教材を取り入れる）指導助言								
14	模擬授業（視聴覚教材を取り入れる）教師・生徒の立場から指導助言 合評会								

15	授業観察・教育実習にむけてその心得 教員採用試験について まとめ	
テキスト	家庭科教育法	
参考書・資料等	家庭科教育の研究・実践・事例集 教員採用試験問題集 家庭科指導の研究 VTR 新聞集	
評価方法	定期考査 模擬授業（学習指導案 教材研究発表等） 授業態度 出席状況	
履修上の注意等	予習 復習 読書 新聞テレビの視聴	

科目	教育心理学(1)	単位	2	授業 形態	講義	開講 時期	2年 前期	担当	佐々木 典彰
到達目標 及びテーマ	○到達目標 ・教育心理学の基本的知識を習得する。 ・教育場面における具体的な工夫・配慮を考える。 ○テーマ 教育心理学の基礎								
授業の 概要	教育心理学のさまざまな領域ごとに、ビデオ教材も用いながら、基本的知識を学ぶ。								
回	授 業 計 画								備 考
1	導入 教育心理学とはどのような学問かを知り、授業の意義を理解する。								
2	動機づけ① いわゆる「やる気」を高めるための方法や、逆にやる気を妨げるものを知る。								
3	動機づけ② 生徒に対して具体的にどのような工夫・配慮をすれば、動機づけの向上が期待できるかを考える。								
4	記憶① 記憶のさまざまな種類・特徴を知り、授業への具体的な活用を考える。								
5	記憶② 効果的に記憶するための方法を知り、授業への具体的な活用を考える。								
6	学習① 心理学における学習の意味、上手く学習する／させる方法を知り、授業への具体的な活用を考える。								
7	学習② 生徒個人の学習の取り組み方に着目し、効果的な学習のためのポイントを考える。								
8	学習③ 生徒個人の学習の振り返り方に着目し、効果的な学習のためのポイントを考える。								
9	発達① 心理学における発達の捉え方、年代ごとの心理的特徴を知り、授業への具体的な配慮を考える。								
10	発達② 乳幼児に焦点を当て、生まれて間もない人間にとって、どのような心理的支援が大切であるかを知る。								
11	発達③ 子どもの社会性・道徳性の発達にも段階があることを知り、指導の工夫を考える。								
12	発達④ どの教科にも必要とされる読解力を高めるためのポイントを知り、授業への活用を考える。								
13	発達⑤ 青年期に焦点を当て、どのような心理的特徴があるかを知り、教員としての対応を考える。								

14	障害 これまで障害が社会のなかでどのように捉えられてきたかを知り、これからの障害児への支援を考える。	
15	まとめ これまでの復習をする。	
	テキスト	なし
	参考書・資料等	適宜、プリントを配布する。
	評価方法	主に授業中に実施する確認テストで評価する。 ただし、授業態度も加味する。
	履修上の注意等	授業時に伝える。

科目	教育心理学(2)	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年後期	担当	佐々木 典彰
到達目標及びテーマ	○到達目標 ・教育心理学(1)の内容を批判的に考えることができる。 ・スムーズにプレゼンテーションをすることができる。 ○テーマ 教育心理学(1)の発展								
授業の概要	履修者が教育心理学に関する既存の研究成果をグループ発表し、その後、教員が講義し、より深く学ぶ。								
回	授 業 計 画								備 考
1	導入 講義の内容、進め方を説明する。								
2	発達① 発達に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
3	発達② 発達に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
4	人格① 人格に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
5	人格② 人格に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
6	学習① 学習に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
7	学習② 学習に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
8	社会① 社会に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
9	社会② 社会に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
10	臨床① 臨床に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
11	臨床② 臨床に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
12	障害① 障害に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
13	障害② 障害に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
14	評価① 評価に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
15	評価② 評価に関する研究成果をグループ発表し、理解を深める。								
テキスト	なし								
参考書・資料等	適宜、プリントを配布する。								
評価方法	グループ発表への参加状況、授業態度などから総合的に評価する。								
履修上の注意等	授業時に伝える。								

科目	教育方法・技術	単位	1	授業 形態	講義	開講 時期	2年 前期	担当	佐々木昭則
到達目標 及びテーマ	○到達目標 教育方法・技術について、基本的な知識と技能を修得し、教育現場において実践できる資質・能力を身につける ○テーマ 児童生徒が学習に興味・関心を持ち、学習意欲を高めるための教育方法・技術を修得する。								
授業の 概要	常に教育現場に立っているという意識のもとに、基本的な教育方法・技術の定着を図る。								
回	授 業 計 画								備 考
1	教育とは	人間の形成と教育の関係、教育観の源流、先人に見る教育観から、教育を考える。							
2	教育の目的	法律で規定されている学校教育の目的から、教育の目的を考える。							
3	教育の内容	なぜ勉強するのかを考え、現代日本の教育課程の考え方を知る。							レポートを書く
4	学習指導要領	学習指導要領とは何かを理解し、戦後の学習指導要領の変遷の概要を知る。							
5	教育制度	教育制度、学校制度について知り、日本の義務教育制度について考える。							
6	授業とは何か	あるべき授業の姿、学習指導計画案、学習形態等について知る。							レポートを書く
7	教材教具	教科書の問題を考え、情報機器及び各種教材の活用を考える。							
8	教育技術Ⅰ	教育技術と教授技能の異同を知り、授業場面での教師の機能について考える。							
9	教育技術Ⅱ	動機付け、板書技術、ノート指導等について考える。							
10	教育技術Ⅲ	効果的な発問を考える。また、机間指導のあり方について考える。							
11	教育評価	学力について、評価のあり方について考える。また、新しい学力観について考える。							
12	教育理論	教授段階説、プログラム学習、水道方式、ATI理論、発見学習等の概要を知る。							
13	個人差対応の指導	個人差に応ずる指導を考え、オープン・スクールや障害児教育の概要を知る。							
14	教師の心・顔	教師としての自己確立、教師と姿勢、教師の顔を多角的に考える。							レポートを書く
15	教育実習と方法・技術	科目「教育方法・技術」の内容と実習での活用について検証する。							レポートを書く
	テキスト	使用しない。							
	参考書・資料等	毎時間、関連資料のプリントを配付する。							
	評価方法	提出レポート(80%)、出席状況(20%)							
	履修上の注意等	事前に指示された事項について留意し、実習を想定して方法・技術の修得に努める。							

科目	道徳教育の研究	単位	1	授業 形態	講義	開講 時期	2年 後期	担当	松田 奈津子
到達目標 及びテーマ	○到達目標 道徳教育を通して、人間としての本来の在り方、よりよい 生き方の基礎の形成・理解を図る。 ○テーマ 学校教育における道徳教育								
授業の 概要	道徳教育の重要性と現代社会における課題をとらえ、学校教育の使命の 在り方・指導方法を理解させる。								
回	授 業 計 画								備 考
1	生きる力	○人間としての生き方と在り方							
2	道徳教育理念	○道徳教育の理念と課題							
3	学習指導要領	○学習指導要領における道徳教育							
4	道徳教育の変遷	○道徳教育の歴史 (1)日本歴史							
5	〃	○道徳教育の歴史 (2)外国歴史							
6	道徳の全体計画	○学校における道徳教育の全体計画							
7	道徳の時間	○道徳の時間のねらいと目標							
8	指導の実践	○道徳の時間における授業づくり							
9	〃	○授業案と発表 (模擬授業)							
10	資料の活用	○多様な資料の活用 (心のノート)							
11	〃	○道徳と他教科との関連							
12	〃	○文学作品と道徳 (司馬遼太郎作)							ビデオ使用
13	多様な連携	○学校・家庭・地域社会の役割連携							
14	評価	○道徳教育における評価							
15	教師の心構え	○道徳教育に携わる教師の心構え							
テキスト		小・中学校学習指導要領・心のノート(文科省出版)							
参考書・資料等		学研道徳副読本(小・中) ビデオ(21世紀に生きる君たちへ)							
評価方法		小論文試験・指導案レポート・出席状況による 総合評価							
履修上の注意等		教職をめざすにあたり、人間力の向上と指導力 の育成に努める。							

科目	特別活動の研究	単位	1	授業 形態	講義	開講 時期	2年 後期	担当	松田 奈津子
到達目標 及びテーマ	○到達目標 特別活動を通して、よりよい人間関係を築く力、社会参画する態度や自治能力の育成を重視することに気づかせる。 ○テーマ 学校教育の中での特別活動の教育的意義								
授業の 概要	学校における望ましい集団活動を通して、社会や集団の一員として、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な活動の自覚を深める。								
回	授 業 計 画								備 考
1	特別活動の位置	○特別活動の目的と意義							
2	特別活動の方法	○特別活動と学習指導要領							
3	教育実践と特別活動(1)	○特別活動における指導のポイント							
4	〃	(2) ○子どもの理解と指導							
5	〃	(3) ○自治を育てる児童会・生徒会活動							
6	〃	(4) ○子どもが生きる学校行事							
7	学級・学年の活動	(1) ○学校の基礎集団としての学級							
8	〃	(2) ○学級活動の展開方法							
9	〃	(3) ○学校行事と学年・学級の連携							
10	特別活動と体験活動(1)	「体験的学習」と「体験活動」							
11	〃	(2) 体験活動を取り入れた指導実践							
12	〃	(3) 学校の独自性を生かした特別活動							
13	特別活動にふさわしい評価	○特別活動の評価の視点と方法							
14	特別活動と教師	○学年・学級の壁を越えた共同性							
15	〃	○特別活動と児童理解のカンファレンス							
テキスト	小・中学校学習指導要領(文科省発行)特別編								
参考書・資料等	弘前市内小中学校特別活動								
評価方法	レポート2回提出、出席状況による総合評価								
履修上の注意等	子ども理解・子どもの関係づくりを具体的に考えられるように配慮する。								

科目	学級・生徒理解	単位	2	授業 形態	講義	開講 時期	2年 後期	担当	佐々木 昭則
到達目標 及びテーマ	<p>○到達目標 児童生徒との信頼関係を育て、児童生徒理解を深めて、児童生徒が自主的・積極的に自己を生かしていくことができるようにする。</p> <p>○テーマ 生徒指導、進路指導、学級経営の基本を理解し、教育相談のあり方、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題についても考察する。</p>								
授業の 概要	学級経営、生徒指導の基本である信頼関係を構築するための心のあり方を、常に考えながら授業を展開する。								
回	授 業 計 画								備 考
1	生徒指導の意義と基本	生徒指導の原理・基本を知り、生徒指導の課題について考える。							
2	生徒指導の組織	生徒指導の組織と職務を知り、組織運営の基本について考える。							
3	生徒指導の方法	規律指導、生徒理解、教育相談、進路指導、教科指導の概要を知る。							
4	学級経営	学級の意義を知り、学級担任の仕事の基本を理解し、経営の課題を考える。							レポートを書く
5	生徒指導の技法	ピアサポート、ロールプレイング、エンカウンター等の概要を知る。							
6	問題行動Ⅰ	暴力行為の形態、件数、場所、事例等の概要を知る。							
7	問題行動Ⅱ	いじめの態様、件数、事例等の概要を知る。							
8	問題行動Ⅲ	不登校のきっかけ、件数、事例等の概要を知る。							
9	問題行動Ⅳ	校則問題、学級崩壊等の判例、要因、事例等の概要を知る。							レポートを書く
10	学校トラブル	虐待、教室内盗難、給食アレルギー、家庭訪問拒否等の事例を考える。							
11	体罰と懲戒	懲戒とは、体罰とはについて知り、事例をもとに考える。							
12	カウンセリングマインド	カウンセリングマインドによる接し方について理解する。							
13	心の教育	「心の教育」の背景を知り、心の教育を目指すための基本を考える。							レポートを書く
14	危機管理	危機管理とは何かを知り、危機管理の基本を考える。							
15	人権教育	人権教育とは何かを知り、学校教育における人権教育について考える。							レポートを書く
	テキスト	使用しない。							
	参考書・資料等	毎時間、関連資料のプリントを配付する。							
	評価方法	提出レポート(80%)、出席状況(20%)							
	履修上の注意等	事前に指示された事項について留意し、自分の心を磨き人間性を高めるように努める。							

科目	師弟対話	単位	2	授業形態	講義	開講時期	2年前期	担当	佐々木 典彰
到達目標 及びテーマ	<p>○到達目標 学校現場における生徒の心の諸問題に関連する心理学的な知識・考え方を習得する。</p> <p>○テーマ カウンセリングマインド、いじめ、不登校など</p>								
授業の 概要	生徒の心の諸問題を知り、どのように理解・対応するかを、ビデオ教材等を用いてイメージを高めながら考える。								
回	授 業 計 画								備 考
1	導入 人間は他者に対して偏った見方をする場合もあることなどを 知り、生徒との良好な対話に向けた意識を高める。								
2	カウンセリング カウンセリングの代表的な理論であるロジャーズのクライ エント中心療法、およびカウンセラーの役割を知る。								
3	スクールカウンセリング① 現代の学校教員に求められているカウンセリングマインド を知る。								
4	スクールカウンセリング② 学校現場におけるカウンセリングマインドに基づいた個別 指導の方法を考える。								
5	カウンセリングの技法 基本的なカウンセリングの技法を、ゲーム等を交えながら、 体験的に知る。								
6	ムカツク・キレル 生徒のいわゆるムカツク・キレル事例をもとに、生徒の心理 を考え、対応を議論する。								
7	いじめ いじめの事例をもとに、いじめられる側といじめる側の心理 を考え、対応を議論する。								
8	不登校 不登校生徒の事例をもとに、不登校生徒の心理を考え、対応 を議論する。								
9	学級崩壊 学級崩壊が起こる要因を考え、学級崩壊を防ぐための方法を 議論する。								
10	虐待 虐待の事例をもとに、虐待される側と虐待する側の心理を考 え、対応を議論する。								
11	発達障害 発達障害児の事例をもとに、障害児とその親の心理を考え、 対応を議論する。								
12	心身症 心の諸問題として、心身症をいくつかとりあげ、それぞれの 概要を知る。								
13	心理療法 心の諸問題への対応として、カウンセリング以外に心理療法 をいくつかとりあげ、それぞれの概要を知る。								

14	学校現場における実践 これまでの内容をふまえ、教員として学級に良好な雰囲気をつくるための具体的な方法を議論する。	
15	まとめ これまでの復習をする。	
	テキスト	なし
	参考書・資料等	適宜、プリントを配布する。
	評価方法	主に、授業中に実施する確認テストで評価する。 その他、授業態度も加味する。
	履修上の注意等	授業時に伝える。

科目	教育体験	単位	2	授業 形態	講義	開講 時期	2年 前期	担当	佐々木 昭則
到達目標 及びテーマ	○到達目標 教職に関する総合的な理解を通して、教師とは何か、教職とは何かについて考察し、自らの進路決定に資する。 ○テーマ 教職の意義、教員の職務内容、教育活動の実際、教育問題等について考える。								
授業の 概要	教職を志望する学生の進路選択に資するために、教育、教職に関する総合的な事項を提供する。								
回	授 業 計 画								備 考
1	科目「教育体験」の目的	どんな教師を目指したいのかを考えてみる。						レポートを書く	
2	教育とは、学校とは	代表的な教育観を知り、学校教育の目的を理解する。							
3	学校の現状	学校数、教員数、在学者数の概要について知る。							
4	なぜ教師になりたいのか	教師論を知り、教師に求められる資質・能力について考える。						レポートを書く	
5	女性から見た教職	職業としての女性教師の特性について知る。							
6	子どもとの信頼関係	児童生徒との信頼関係に基づく指導力について考える。							
7	学校の組織と運営	学校の組織や運営方法、それぞれの職務や分担などを知る。							
8	教師をめぐる法律	教員の服務規定、身分保障、処分について考える。							
9	教師の実態と課題	教職の特殊性、教師の悩み、不安等について考える。							
10	最近の子ども	近年の児童生徒の傾向について考える。						レポートを書く	
11	教員の研修	教員の質を高めるための研修の概要について知る。							
12	教員になるには	教員採用の仕組みと現状について知る。							
13	理想の教師とは	子どもの目、学生目、ドラマから、理想の教師を考える。						レポートを書く	
14	教育問題を考える	新聞記事を通して、近年の教育問題について考える。							
15	児童理解、生徒理解	「徒然草」の文章から、子どもの特性を理解することを考える。						レポートを書く	
	テキスト	使用しない。							
	参考書・資料等	毎時間、関連資料のプリントを配付する。							
	評価方法	提出レポート(80%)、出席状況(20%)							
	履修上の注意等	事前に指示された事項について留意し、教職の厳しさと魅力について理解するよう努める。							

科目	教職実践演習(中)	単位	2	授業 形態	演習	開講 時期	2年 後期	担当	工藤 トミ子 佐々木 昭 則
到達目標 及びテーマ	<p>○到達目標 学生一人一人が教員としての資質能力を高め、教育現場での実践力を確かなものとする。</p> <p>○テーマ 将来、教員になる上で、何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技術等を補い、教職生活を円滑にスタートさせるための準備をする。</p>								
授業の 概要	<p>教員として求められる使命感・責任感、社会性、子ども理解、指導力等の事項に関して演習を通して実践能力を高めていく。</p>								
回	授 業 計 画								備 考
1	教職論①	教職実践演習のねらい、内容等について確認し、実践的な指導力を高める意欲をもつ。							
2	教職論②	授業を通して子どもを見、意図的・計画的に育てることの大切さを学ぶ。							グループ討議
3	教職論③	個々に教員として最小限必要な資質・能力が身に付いているか確認する。							集団討論
4	教職論④	望ましい教員になるための決意を確認し、学習の成果を検証する。							役割演技
5	生徒指導①	事例研究を通して児童生徒の理解と学級環境の整備について理解する。							グループ考察
6	生徒指導②	不登校の子どもへのカウンセリングマインドに基づく対応について学ぶ。							役割演技
7	生徒指導③	保護者との連携を密にするための方法について実践的に理解する。							役割演技
8	学習指導①	示範授業を通して、基本的な指導技術について理解する。							示範授業
9	学習指導②	指導案に基づいた示範授業を通して、指導案の必要性を理解する。							示範授業
10	学習指導③	模擬授業を通して、より望ましい授業づくりを考える。							模擬授業
11	学級経営①	年間を通した学級経営の意義・内容について理解する。							グループ討議
12	学級経営②	一日の教育活動の生活単位である学級の環境を充実したものについて考える。							グループ討議
13	学級経営③	学級経営の目標を確認し、学級の環境の整備の方法について理解する。							グループ討議
14	学校見学①	幼稚園の教育活動を参観し、子どもの特性や発達段階に応じた教育活動のあり方を学ぶ。							参観
15	学校見学②	個別の課題について、学校現場で実際にどのように工夫・実践されているかを検証する。							参観
	テキスト	使用しない							
	参考書・資料等	そのつど資料を作成して配布する							
	評価方法	授業中の活動状況、レポート等により担当教員の協議により総合評価する。							
	履修上の注意等	「履修カルテ」を活用し、補完的履修に努める							

科目	教職実践演習(栄養)	単位	2	授業 形態	演習	開講 時期	2年 後期	担当	真野 由紀子 佐々木 昭 則
到達目標 及びテーマ	<p>○到達目標 学生一人一人が教員としての資質能力を高め、教育現場での実践力を確かなものとする。</p> <p>○テーマ 将来、教員になる上で、何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技術等を補い、教職生活を円滑にスタートさせるための準備をする。</p>								
授業の 概要	<p>教員として求められる使命感・責任感、社会性、子ども理解、指導力等の事項に関して演習を通して実践能力を高めていく。</p>								
回	授 業 計 画								備 考
1	教職論①	教職実践演習のねらい、内容等について確認し、実践的な指導力を高める意欲をもつ。							
2	教職論②	授業を通して子どもを見、意図的・計画的に育てることの大切さを学ぶ。							グループ討議
3	教職論③	個々に教員として最小限必要な資質・能力が身に付いているか確認する。							集団討議
4	教職論④	望ましい教員になるための決意を確認し、学習の成果を検証する。							役割演技
5	生徒指導①	事例研究を通して児童生徒の理解と学級環境の整備について理解する。							グループ考察
6	生徒指導②	不登校の子どもへのカウンセリングマインドに基づく対応について学ぶ。							役割演技
7	生徒指導③	保護者との連携を密にするための方法について実践的に理解する。							役割演技
8	学習指導①	示範授業を通して、基本的な指導技術について理解する。							示範授業
9	学習指導②	指導案に基づいた示範授業を通して、指導案の必要性を理解する。							示範授業
10	学習指導③	模擬授業を通して、より望ましい授業づくりを考える。							模擬授業
11	学習指導④	具体的な活動例を通して、地域と連携した食に関する指導の方法について理解する。							グループ討議
12	学習指導⑤	食に関する個別指導例を通して、具体的なテーマについて始動計画を考える。							役割演技
13	学習指導⑥	指導案を発表し、よりよい個別指導の留意点を理解する。							
14	学校見学①	幼稚園の教育活動を参観し、子どもの特性や発達段階に応じた教育活動のあり方を学ぶ。							参観
15	学校見学②	個別の課題について、学校現場で実際にどのように工夫・実践されているかを検証する。							参観
	テキスト	使用しない							
	参考書・資料等	そのつど資料を作成して配布する							
	評価方法	授業中の活動状況、レポート等により担当教員の協議により総合評価する。							
	履修上の注意等	「履修カルテ」を活用し、補完的履修に努める							